

## &lt;学習を振り返りましょう&gt;

自分のなかで、わかったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。

【参考】「9つのお手伝い効果 ～お手伝いをするようになると、こんなふうには子どもは変わる～」

1	気がつく子になる。	掃除を通して、汚さないようにすればいい事に気がつき、人の気持ちにたって、思いやれるようになる。
2	サッと動ける子になる。	汚れているな、と気がついたときにサッと動ける子になる。
3	生活技術の基本が頭でなく、身体で覚えらる。	くり返すことによって、無意識に身体が動くようになる。
4	生きることに前向きな子になる。	食べる喜び、きれいにすることの気持ちよさなどを通して、充実感を感じ、生きることに積極的になる。
5	ものを大切に使う子になる。	手入れをする、交換する等、手を動かしていると「使い捨て」ではわからない、暮らしの豊かさを感じられるようになる。
6	人ときちんと向かい合える子になる。	お茶を運んだり、回覧板をまわすなどのお手伝いを通して、家族以外との人間関係を学ぶことができる。
7	コミュニケーションができる子になる。	お手伝いを通して、親子の会話はもちろん、近所の人とおつきあひもできて、コミュニケーション能力がつく。
8	おとなへと成長させる。	例えば留守番は家のことに気を配って、きちんとしなきゃという緊張感を強いられる。これが子どもを大きく成長させる。
9	家族の一員としての自覚が育つ。	自分の役目ももらい、きちんとこなすことで使命感も芽生え、家族の一員たる自覚もできる。

<辰巳 渚 著「子どもを伸ばすお手伝い」(岩崎書店)より>

県民の皆さんから寄せられた声 (平成18年度広島県教育モニターアンケートより)

・とにかく、親も子育てを楽しむぐらいの気持ちが必要、うまくいなくても当たり前ぐらいの気持ちを持とう。カエルの子はカエルですよ。

・手伝いなどを「やりたい!」と言った時に、「自分(親)がやったほうが早く終わるけどなあ…」などと思いつつもやらせてみました。案の定失敗したりしていましたが、「どう?」と自信たっぷりに言うので「助かったよ～! ありがとう!」と言うと、進んで毎日続けてやるようになりました。今でも「手伝いなさい!」と命令するようなことは、ほとんどありません。



# 暑って、話して、自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

「過ぎてしまえば一番幸せ」期 (子育て前期)

「クタクタでもワッハッハ」編

(3～6歳児の親を対象としたプログラム) その2

# 〇〇ちゃんがするっ!!

## ～自我の芽生えと親の思い～

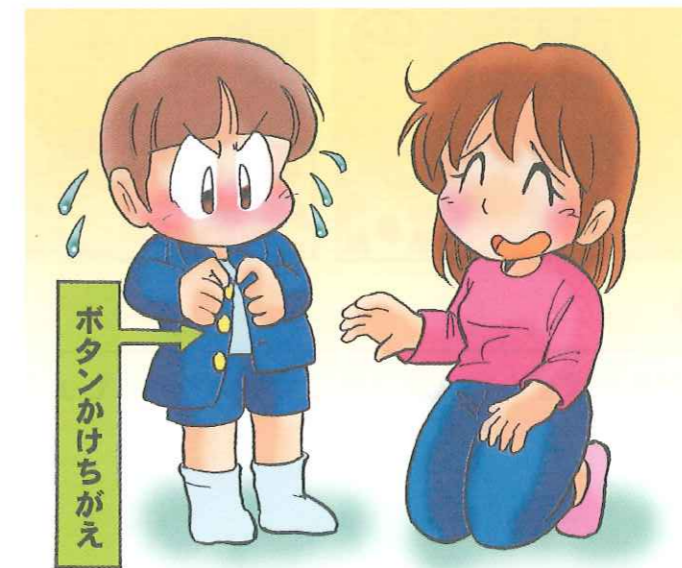


イラスト: うじな かずひこ

幼児期は自我の芽生えの時期。自己主張も激しくなり、なんでもかんでも自分がやりたがるようになります。行動範囲も広がり、親は眼が離せません。「危ない!」「またやっちゃったの!」「いいかげんにしなさい!」…追いかけて、怒鳴ってばかりで、気がついたらクタクタになっていませんか?

きちんとしつけはしながらも、ゆっくり、ゆったり楽しい子育て…そんな方法を探してみましょう!!

お問合せ: 〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47 広島県立生涯学習センター  
TEL: 082-248-8848 FAX: 082-248-8840 E-mail: sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp

広島県教育委員会

<マンガを読んで考えましょう>



これと似たような体験がありませんか。思い出して書いてみましょう。

このお母さんの「ヤメテ!!」という対応について、どう思いますか。

このような場合、あなたならどのように言いますか。(対応しますか。)

<考えましょう、出し合いましょう>

ここでは、「ヤメテ!」と言われた子どもの気持ちを考えてみましょう。

「ヤメテ!」のことばを聞いて、すぐにやめた時の、子どもの気持ちは?

「ヤメテ!」のことばを聞いても、どうしてもやりたがる時の、子どもの気持ちは?